

大阪湾岸 5 区の大気汚染

3 日のレポートで紹介したように、第 48 回公害環境デーの報告から、多くのことを学び、刺激を受けた。「ソラダス 2020 実行委員会」の西川榮一先生による報告も、そのひとつだ。ソラダスとは市民による大阪 NO2 簡易測定運動。約 1km(大阪市域は 500m)四方のメッシュごとの測定と自主測定。2020 年も 6 月を中心に実施される。

写真はソラダス 2016 メッシュ測定結果。大阪市域の汚染濃度が最も高く、そこを中心に周辺府域に広がる。大阪市域の汚染濃度が高い地域は、北区、浪速区、西区と湾岸 5 区(西淀川区・此花・港・大正・住之江)。

ソラダス 2020 で注目したい点として、次の 2 点をあげる。NO2 メッシュデータと合わせて、健康アンケートをより多く集め、ぜん息など呼吸器系疾患との関係を調べる。大阪市中心部や湾岸 5 区は、自動車交通などにより、現状でも NO2 汚染は看過し得ないレベルにあるが、万博や IR・カジノが作られたりすると、夢洲を行き来する交通はこの地域に集中してくることになる。

資料集の最後に、西川先生の大阪万博環境アセスメント方法書に関する意見書が掲載されている。大気汚染について、次のように意見が書かれている。

大阪市の測定局は、港区はゼロ、此花、大正、咲洲には 1 局しかなく、幹線道路沿道や交差点など高濃度汚染スポットの把握が十分でない。調査地点を増やして現況を詳しく把握すべきである。

一般国道 43 号線など、湾岸 5 区の幹線道路の大型車混入率は非常に高く、現状でも NO2 ゾーン環境基準の下限値どころか上限値をも超えている沿道もあり、また PM2.5 の環境基準を超えている地域も存在し、湾岸 5 区は深刻な大気汚染に悩まされている。万博の工事・供用による自動車交通の増大は大変心配される。詳細な調査検討とそれに基づく汚染対策が必要である。

私も万博アセス方法書に関する意見書を出したが、夢洲ばかりに目が向いて、湾岸 5 区など周辺の環境影響まで意見に書かなかった。西川先生の意見とソラダスから学んだ。

(2020 年 2 月 6 日)

